

学校図書室の環境整備とさらなる活用を！



大谷 弥生 議員

図書室専用パソコンは平成21年度から導入されたが、いまだに書誌データが全て入力されておらず、活用できていない中学校がある。教育委員会として何か対応できないか。

教育次長

図書室専用パソコンを有効に活用できていない学校に対しては、要望があれば書誌データの入力作業の操作方法について指導を行っていききたい。



▲学校図書室の様子

◆足利市歌とイメージキャラクターたかうじ君

足利市歌にのせた元気アップ体操の認知度をさらに上げるため、ユーチューブ（動画共有サイト）で見られるようにしてはどうか。また、たかうじ君体操とセットで考え、本市のご当地体操として、地区体育祭や尊氏公マラソンなどで披露してはどうか。

福祉部長

より多くの人に元気アップ体操を知っていただくため、ユーチューブで視聴できるように調整したい。また、地区体育祭等での披露については、今後、たかうじ君体操の普及に合わせ、イベント関係者等への働きかけを行っていききたい。

高齢者スポーツ施設の充実について問う！



須田 瑞穂 議員

高齢者を中心に、パークゴルフやグラウンドゴルフの競技人口がふえている。これらの競技施設の充実、観光誘致による人を呼び込む戦略にもつながると考えるがどうか。

市長

年々増加する利用者に対応するため、西部複合施設多目的広場を整備し、また、借宿緑地内パークゴルフ場は既存の9ホールから18ホールに増設した。この増設により日本パークゴルフ協会の公認コースの認定を取得できれば、県大会や関東大会等の開催が可能となり、市外からの参加者等の誘客も図れることから、平成28年度に認定申請を行い、観光誘客を進めていきたい。

◆一般県道名草・小俣線小俣立体事業

同事業の立体交差の整備により、周辺地域の振興や発展など、さまざまな効果が期待できると考えるが、所見を聞きたい。

都市建設部長

本路線の整備で、JＲ両毛線と一級河川小俣川で分断された南北の市街地が結ばれることにより、道路ネットワークが強化され、円滑な交通が可能となる。また、安全性や利便性が向上し、さらには沿道や近隣の土地利用の増進が図られるなど、小俣地区の活性化に大きな効果が期待できるものと考えている。



▲建設中の小俣立体交差

徘徊高齢者等位置検索システムの利便性向上と利用促進を！



大島 綾 議員

同システムは、認知症や知的障がいによる徘徊者の早期発見、事故防止に有効である。さらに周知を進めるとともに、身につけやすい機種に変更すべきではないか。

福祉部長

ホームページ等で周知しているが、利用が低調であることからさらに周知徹底を図りたい。また、本市が導入しているGPS端末機はカバンやポケットに簡単に入れられる利便性がある反面、外出時に身体から離れてしまう恐れがあることから、今後、利用者の声を聞きながら研究していききたい。



▲本市で導入しているGPS端末機(横4.3cm×縦7.9cm)

◆「ヘルプカード」の配布及び普及・啓発

障がいのある方が困ったとき、周囲の方に手助けを求めやすくするための「ヘルプカード」を作成し、必要な方に配布すべきと考えるがどうか。

福祉部長

ヘルプカードには、障がいのため意思伝達が困難な状況でも、カードを見た人からスムーズに援助が受けられる等の効果がある。一方で、障がい者手帳の記載内容と重複があり、個人情報漏えいなどが考えられることから、課題や先進事例を踏まえて検討している。

人口減少時代に
あわせて都市づくりを！



平塚 茂
議員

問 足利市人口ビジョンでは、平成72年の目標人口を10万人とした。このような想定を考慮し、人口減少と超高齢社会にふさわしい都市計画に変更すべきではないか。

市長 市民力を生かしたまちづくりを進め、中心市街地の再生や各地区の拠点施設等の適正化など、現在のコミュニティを保ちながら、さらなる拠点化を見据えた施策を展開していく。その時々ニーズや社会経済情勢を的確に判断し、適正な都市計画を検討していきたい。

◆子供の貧困対策

問 親の貧困が子供を貧困に陥らせる貧困の連鎖が問題となっているが、本市ではどのような支援体制をとっているのか。

福祉部長

本市では、就学援助制度などの教育支援、養育支援訪問事業などの生活支援、保護者に対する就労相談などの就労支援、児童扶養手当の支給などの経済的支援を実施している。子供の成長段階に応じて各部署で連携し、情報を共有することによって、行政の網の目から落ちないように今後も対応していきたい。



観光戦略について問う！



中山 富夫
議員

問 本市では観光行政に力を入れているが、推進に当たっては国の新型交付金を有効活用し、官民一体で取り組むべきと考えるがどうか。

市長 国の新型交付金を取り入れ、国内外へ「足利」というブランドを強く訴えるための事業、滞在時間の延長や宿泊につながるための夜景観光、足利銘仙を活用した事業などに積極的に取り組んでいきたい。観光のまちづくりには「これ以外ない」という答えはなく、市民と行政が共に悩み、苦しみながらも夢を持って着実に前進することが、よりよいまちづくりにつながると考えている。

◆出合いの場の創出

問 市内で行われている婚活イベントに対し、市として積極的に協力すべきではないか。

政策推進部長

婚活イベントに対して、行政が関与することで参加者の安心感や信頼につながるとの声を受け、平成26年度からイベント名称に「あしかが婚活応援事業」の名義使用を認める制度を開始した。主催者からも参加を呼びかけやすくなったと好評をいただいております。引き続き民間活力を生かしたイベントへの側面的な支援を続けていきたい。



▲市内で開催された婚活イベント(里コン)の様子

市長の政治姿勢に
ついて問う！



小林 貴浩
議員

問 市長就任から2年半が経過した。厳しい財政状況の中で市政運営を行うには市長の考え方は大変重要であるが、今後、どのようなリーダーシップが必要と考えているのか。

市長 私にとつてのリーダーシップは、人としての「徳」であり、自分自身が成長すること以外にはないと考える。他人との比較ではなく、自分自身がどうあるべきかという哲学と理念の問題であり、毎日一分一秒をおろそかにせず、市民の声に耳を傾け、現場に赴き、職員と議論し、本を読み、勉強して情報と知識を集め、自分自身を鍛える。そうして毎日少しずつでも成長することこそが私にとつての徳であり、リーダーとして最も必要なものだと考えている。

◆まちづくりの展望

問 時代の流れや市民からの多種多様な要望に応えるためには、新しい制度や仕組みが必要と考えるが、市長の所見を聞きたい。

市長

市民と行政が地道にまちを前進させるための小さな取り組みを積み重ね、地味でも息長く取り組むことが大切だと考える。変えるべきもの、変えてはいけないものをよく見極め、今後もまちづくりに全力を傾注していきたい。

